

令和3年度第1回

札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会

会 議 録

日 時：2021年12月13日（月）午前10時開会
場 所：札幌エルプラザ公共4施設 2階 環境研修室1・2

1. 開 会

○太田会長 それでは定刻となりましたので、令和3年度札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を開催します。

約2年振りの開催ということもあり、ご無沙汰いたしておりましたという方と、初めましてという方が半々くらいかと思います。後ほど自己紹介をお願いすることになると思いますので、よろしくお願いいたします。

今日は、このような情勢の中、また朝から雪も降る中をお集まりいただきまして、ありがとうございました。

私は、昨年度末に、本委員会の書面会議にて会長を仰せつかった太田です。北翔大学で勤務しています。しばらく間が空いての進行ですので、少し不安もあるのですが、皆様のご協力により、できるだけ円滑に進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局（北村環境教育担当係長） 私は、環境政策課環境教育担当係長の北村です。今日は、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本委員会の開催に当たりまして、事務局を代表して、環境局環境都市推進部長の菅原より一言ご挨拶を申し上げます。

○菅原環境都市推進部長 環境都市推進部長の菅原です。

開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、年末のお忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございます。

皆様には令和2年4月から委員にご就任いただいておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、こうした対面での会議は今回が初めてとなります。また、今年度は、コロナ禍による緊急事態宣言などに伴って、各種イベントが中止となり、ここ環境プラザも休館が数か月に及ぶなど、異例な年でした。

そうした中ではありますが、札幌市としては、子どもたちの環境教育や環境学習の機会が損なわれることのないよう努めてきましたので、後ほどご報告いたします。

さて、先頃、イギリスのグラスゴーで、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議COP26が開催されました。この会議では、産業革命前からの気温上昇を1.5度に抑えるという目標が成果文書に盛り込まれるなど、脱炭素社会の実現に向けた世界の動きが加速しています。

また、このCOP26に合わせて、気候変動対策の強化を求める多くの若者がグラスゴーに集まり、日本でも全国の若者による気候変動対策の必要性を訴える集会が行われたとの報道がありました。

異常気象や自然災害が相次ぎ、甚大な被害をもたらしている中、若い世代は危機感を持って行動しているところであり、こうした環境保全活動の担い手を広げていくため、これまで以上に環境教育や環境学習を積極的に進めていくことが重要であると感じているとこ

ろです。

未来を担う子どもたちに豊かな地球環境を引き継ぐために、今後も、教育委員会をはじめ、関係機関のご協力を仰ぎながら、環境教育や環境学習の一層の推進に取り組んでまいりますので、皆様のお力添えをお願いいたします。

本日は、よろしく願いいたします。

○事務局（北村環境教育担当係長） 次に、事務局員の紹介をいたします。

環境政策課長の東館です。

環境政策課環境推進係の佐野です。

本日は、オブザーバーとして、教育委員会教育課程担当課から阿部企画担当係長にも出席いただいています。

また、札幌市環境プラザの指定管理者である財団法人青少年女性活動協会の川村係長と高橋さんにも参加いただいています。

どうぞよろしく願いいたします。

コロナ感染症対策の関係ですが、マイクがお1人に1本ではなく、2人に1本ぐらいの間隔でマイクが配置されています。適宜ご使用いただいて、お手元に消毒のシートがありますので、それも使っていただければと思います。

本委員会は、先ほど太田会長や菅原部長からの挨拶にもありましたとおり、本日が現委員の任期になってからの初顔合わせです。

つきましては、本日ご出席の委員の皆様にお1人ずつ、簡単で結構ですので、自己紹介をお願いします。

お座りいただいている順に、大沼副会長から時計回りでお願いします。

○大沼副会長 北海道大学の太沼と申します。

本業は、行動科学や実験社会科学、人間の行動や社会のあらゆることを実験してみるということをしています。環境問題についても、こちらで長らくお世話になっています。

私は今、来年4月からプラスチック資源循環促進法ができるのですが、環境省の事業に巻き込まれております。ご存じのとおり、マイクロプラスチックなどの世界的なプラスチック問題を受けて、そういった問題はほとんど河川由来であることが分かっており、河川由来のプラスチックごみのほとんどがポイ捨てであるということで、ポイ捨てをどのように抑止できるかの社会実験をせよという宿題をいただいており、こちら札幌市環境政策課さんにもいろいろとお騒がせしているところですが、多分、様々な方々との連携が一番の肝になると思っています。それは、NPO、NGOをはじめとした市民団体や小・中学校や企業の熱心な方々とタッグをつくりながら、熱心ではない人たちにどうアクセスするかという宿題を6年間のプロジェクトとしていただきまして、もしかしたら、こちらにいらっしゃる皆様方にも、いきなりお願いをすることがあるかもしれませんが、そのときにはご協力をいただければと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

○野崎委員 札幌市立八軒小学校の教頭をしています野崎猛と申します。

恐らく、この会議には5年ぐらい出させていただいていると思っています。北村さんに最初に声をかけていただいたことを思い出しました。

私は、特に社会科を中心にいろいろなことを学んでいたのも、その立場からいろいろとお話できればと思っています。

学校の横に公園があり、地域の方と一緒に使うことがあるのですが、ごみを捨てるのは、結構な年配の方だったり地域の方だったりが多いと思っています。やはり、環境教育は、小さいうちからしっかりとやっていくことが大切と、教頭の立場でごみを拾いながら思うことがあります。よろしくをお願いします。

○吉田委員 札幌市立旭小学校の校長をしています吉田と申します。

私は、札幌市生活科・総合的な学習教育連盟から、誰か勉強をしてこいということで、ここ何年間か関わらせていただいています。今回が新しいスタートということですが、私も3月で定年退職をするので、その後はまた新しい方につないでいきたいと思いません。短い期間になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○久保田委員 おはようございます。今回、市民公募委員を仰せつかりました久保田です。

私は、長く札幌市内で高校の教員をしており、現在は退職し、札幌市内の市の関係機関に勤めています。

今回、公募委員に応募した動機は、昨年のコロナ禍が始まってすぐの頃でしたが、私も一人の市民として、自分がこれまでいろいろ経験してきたことからお役に立てるのではないかと思い、応募しました。どうぞよろしくお願いいたします。

○内山委員 皆さん、おはようございます。

北海道環境財団で協働推進課長をしています内山と申します。

普段は、助成金等を通じて、環境保全活動の支援等を行っています。

昨年度末から北海道フロンティアキッズ育成事業に取りかかっており、道内の小学校6校を道教委に選抜いただき、地域未来図というSDGsの視点での地域の課題や魅力を再発見してもらうという事業を行いました。

10月の半ばに、札幌に6校から2人ずつの子どもたちに集まっていただき、模造紙を何枚も使って説明していただき、地域の魅力を子どもたちが発信するというのは非常に素晴らしいことだと感じていました。

学校としては、下川、勇払、石狩八幡、大沼岳陽、秩父別、蘭越ということで、かなり田舎の方の学校の子どもたちがいるのですが、その中でも商店街の魅力などを発表していただき、こちらとしても事業をやって非常によかったなと思ったところです。

ほかには、こちらの計画にもありますが、環境教育とか環境保全活動のプログラム実践研修というものを年明けに予定しています。最近、熊の出没がありますけれども、プロジェクトワイルドという資格制度をもって、野生生物との共生について研修を行う予定です。こちらの会議も頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○西塚委員 北ガス広報の西塚と申します。

エネルギーと環境教育の担当をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

○村形委員 皆さん、おはようございます。

札幌市PTA協議会副会長の村形と言います。

今回、初めて参加をさせていただき、いろいろと勉強して帰りたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○坂本委員 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクトの坂本と申します。

私は、余市を拠点として活動しています。持続可能な暮らしと地域社会ということで、環境問題はもちろんですけれども、農業や都市と農村の共存とか、いろいろなテーマで研修や学びのプログラムを提供しています。

今、環境省の地域循環共生圏何とかという長い名前の事業があるのですが、地元の役場や観光協会、農協さんとか漁組さんと一緒になって、観光を通じて学びのプログラムを提供し、かつ、地域のSDGsを実現しますという事業を提案して、進めているところです。

具体的には、SDGs研修という名前で、東京とか大阪の修学旅行の一部を受け入れて、丸1日のプログラムで、海に行ってビーチコーミングをしたり、森に入って樹木の材積量とかCO₂の固定量を量るとか、もちろん農業体験とか、外来生物を除去するとか、いろいろなプログラムを同時並行して行っています。残念ながら、今年は大きい学校はみんなキャンセルでしたが、札幌の私立の高校や地元の高校生の受け入れをしました。

先ほど、内山委員が田舎の学校とおっしゃいましたが、田舎の1次産業とかエネルギーや環境に都市が支えられているということを知っていただくため、ぜひ札幌の皆さんにも現場を見ていただきたいし、そこでどんなつながりがあって、もちろん農村部も都市部の力がないことには自立していかないので、その辺の関係性を子どもたちとも一緒に考えているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

○有坂委員 おはようございます。

RCE北海道道央圏協議会の有坂と申します。

分かりにくい組織ですけれども、RCEというのは、今、世界180か所ぐらいだったと思いますが、国連大学が認定をする持続可能な開発のための教育を推進する地域拠点です。北海道には2015年につくりまして、その事務局長をしています。

最近、SDGsが注目されるようになっていますが、環境とは何かと考えると、どうしても自然環境をばっと思いついてしまうと思います。環境という言葉で調べると、自分の周りにあるもの全てとありますので、自然環境だけに限らないということです。それは、SDGs的と言うと軽いのですけれども、いわゆる自然環境だけではなく、社会とか経済と一緒に考えていきたいと思います。その関係性をどうやって理解して、より暮らしやすい社会、世界をつくっていく担い手を育てるかということが、ESD、持続可能な開発のための教育だと思っています。

そのESDを進めるためには、様々な人たちが連携していくということが非常に重要で欠かせないことだと思っていますので、私たちの団体では、そういったパートナーシップ

を大事にしていきたいと思っており、私は、皆さんとの連携という視点で特にお話をさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○伊藤委員 公募により市民委員となりました伊藤と申します。

私は、もともと札幌市内で中学校の教員をしていました。また、北海道エネルギー環境教育研究委員会というところでも、開設時からずっと研究をさせていただいております。現在はミニ児童会館に勤務しているのですが、私どもの協会で環境教育という研修があり、そのときに札幌市環境局の方の話を聞いて、そうだ、まだ私にも市民として子どもたちにいろいろできることがあるよなという思いを持って、応募させていただきました。

随分昔にエコライフレポートのお手伝いをさせていただいた気がするのですが、もうそろそろ変えてもいいかなと思いつつ、そういう面でも協力できればと思っております。

もうちょっとしかないですけども、何とかできる範囲のことをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○荒島委員 こんにちは。札幌市立幌東中学校校長の荒島です。

教科は理科で、私の前任はこの会議に10年以上引き続き出ておまして、その後を継いでこちらに参加させていただきました。

私は、縁があって、平成7、8年に一番最初の環境プログラムをつくったときにもその作成に関わらせていただきました。その後、子どもたちの環境教育の取組の発表にも部活を引き連れて参加しています。

その後、管理職になってからは実践から離れていくのですが、札幌は4Rからスタートして、現在は3Rです。SDGsが入ってきたり、いろいろなもので環境に対する取組や考え方が変わってきています。この委員会では、子どもたちだけではなくて、札幌市民も含めて、札幌のための環境教育・環境学習について、よりよい建設的な意見をお伝えすることができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（北村環境教育担当係長） 皆様、ありがとうございます。

次に、委員の出席状況ですけども、本日、増淵委員及び福岡委員からは欠席の連絡をいただいております。

本日の出席は12名で、委員数14名の過半数に達していることから、札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会設置要綱第5条第2項の規定により、本会議が成立していることを報告します。

続きまして、本日の配付資料の確認をします。

本日お配りした資料は、上から次第と次第の裏面に座席表が載っています。資料1として委員名簿、資料2として札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会設置要綱があります。資料3として環境教育関係事業についてとあり、主に資料3に基づき説明します。そのほか、クリアファイルに入っている資料があります。一番上には札幌市環境教育・環境学習基本の本編、概要版があります。次に、札幌市環境局の環境教育へのクリック募金のパンフレット、エコライフレポートは小学校の低学年、高学年、中学生の分の3種類と、

認定証のサンプルがあります。次に、校外学習のモデルコースのパンフレット、環境保全アドバイザー・環境リーダー講師派遣のパンフレット、令和3年度環境教育・子どもワークショップ開催概要、また、札幌市環境プラザのリーフレット、環境広場さっぽろ2021バーチャルツアーのチラシがあります。最後に、札幌市の環境教育・環境学習ガイド令和3年度版があります。

資料は以上で、不足等があれば事務局までお申し付けいただければと思います。

事務局からは以上です。

2. 議 事

○太田会長 それでは、レジュメに沿いまして、議事に入ります。

本日の議事は、令和3年度環境教育関係事業の実施状況及び今後の予定についてとなっております。

委員の皆様には、事務局からの説明の後にご意見をいただきます。

概ね12時前には会議を終わりたいと思いますので、ご協力のほどをお願いします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

○事務局（北村環境教育担当係長） 今年度の環境教育関係事業の実施状況や今後の予定について資料3に基づいて説明します。

まず、1のはじめの部分です。

こちらは、参考資料にある2019年に改訂した札幌市環境教育・環境学習基本方針の取組の四つの柱を示したものです。

1ページの下段に記載がありますが、（1）として学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進、（2）として環境人材の育成、（3）として環境教育・環境学習の場と機会の充実、（4）として普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しとあり、環境教育関係事業は、これら4つの取組に基づいて実施していることから、各事業をそれぞれの取組に分類し、取組ごとに区切って順に説明します。

まず、（1）の学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進と（2）の環境人材の育成を一括して説明します。

資料3の2ページ目、学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進ということで、アとして、環境副教材・教師用手引書についてです。

これは、毎年度、市立小学校の新1年生、3年生、5年生の全児童に配付して、それぞれ2か年にわたって利用いただいています。

併せて教師用の手引書も作成しています。より利用しやすい副教材、手引書とするために、理科、社会科、家庭科、生活科、特別な教科道徳の各担当教員によるワーキンググループを組織して、毎年度改訂作業を行っており、現在、改訂作業中です。

続きまして、イの環境教育へのクリック募金についてです。

こちらは、インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザの

ホームページ上で、協力企業、現在は7社ありますけれども、各社の環境活動を紹介し、閲覧数に応じた金額を協力企業からご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入し、希望する学校へ寄贈しています。

今年度は、計41校に、手回し発電機、酸素や二酸化炭素の濃度を測るガス検知管、トマトや枝豆の野菜苗などの環境教育教材を寄贈しています。

クリック募金のホームページ上には、寄贈された環境教育教材が各学校においてどのように活用されたのかを事業報告書として紹介しており、今年度の事業報告書は、年度末に公開予定です。

次に、2ページの下段のウ、エコライフレポートについてです。

これは、子どもたちが声かけ役となって、家庭におけるエコ行動を促す取組として、平成19年度にスタートした事業です。

夏休み及び冬休みの前に、市立小・中学校の全児童生徒に対して、家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配付します。

今年度は、札幌市が市内の温室効果ガス排出を2050年に実質ゼロとするゼロカーボンシティを宣言したことを踏まえて、「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズとして、気候変動について学びながら、節電や地産地消などに取り組んでもらう内容としています。今年度からは、小学校4年生以上には、自らエコにつながると思う行動を考えて記入し、実践してもらう欄も新たに設けています。

また、学校単位で子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算し、これを記した認定証を配付しており、子どもたちが自ら考えて実践した取組の中で多かったものについては、認定証の中に「ほかにもこんな取組をしてくれました」という欄を設けて紹介しています。サンプルがありますので、後ほどご覧いただければと存じます。

なお、このエコライフレポートは、このたび、イクレイの国際版というものがあまして、イクレイというのは、3ページの下に説明がありますとおり、International Council for Local Environmental Initiatives、持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会と訳されていますが、世界で1,750以上の自治体で構成されたネットワークがあり、その国際版に日本のユニークな活動の一つとして取り上げられ、英語では、エコライフチェックリストと訳して紹介されていました。

また、夏休みに民間団体の主催でオンライン開催された子どもをターゲットとした環境イベント、エコチルまつりというものがあ、そちらにエコライフレポートに関するブース出展を行って、エコライフレポートの取組方法やエコ行動の事例紹介など、札幌市の取組を紹介しました。

3ページの下段の表のとおり、今年度の夏休みエコライフレポートの取組率は、小学生で96.4%、中学生で88.8%、小学生・中学生全体では93.9%でした。

エコライフレポートのサンプルは後ほど参考にしていただければと存じます。

続きまして、4ページ目、校外学習用バスの貸出しです。

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小・中学校を対象に校外学習用バスの貸出し事業を行うものです。

学校現場のニーズなどを踏まえて、平成28年度からは市外近郊や民間施設も見学対象施設に加え、太陽光発電や風力発電の設備、LNG基地、液化天然ガスの基地などを見学コースに組み込んでいるほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、児童生徒が座席間隔を空けて乗車できるよう、1校当たりの貸出し台数を増やした上で、申込みがあった全学校で実施することができました。貸出し実績の推移と今年度の主な見学先については、4ページの表のとおりです。令和3年度は、コロナ禍の影響もあって、申込み校数も減少したのですが、バスの席を一つ置きにしたため、バスの利用台数は一昨年と同等のバスが使用されました。バス事業につきましては、昨年度末の書面会議の際に、委員の皆様のご意見や学校の先生からも意見を伺ったのですが、実際に体験することの重要性を伺っていたので、コロナ禍の緊急事態宣言中でしたが、途中での事業中止も想定しながら事業を進め、ちょうど10月に緊急事態宣言が解除になったことから、何とか事業実施にこぎ着けたところです。

バス事業のモデルコースについては、クリアファイルに参考資料としてあります。

次は、4ページの下の学校での出前講座の実施についてです。

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環として、市の職員が依頼に基づいて地域に出向き、所管事業について分かりやすく説明を行う出前講座を実施しています。

近年は、SDGsの普及や地球温暖化、気候変動への関心の高まりによって、学校からこれらの講座への依頼が増えており、総合学習などの授業の一環として活用されています。

5ページの上に昨年度と今年度途中までの実績を載せていますが、既に昨年度を上回る件数と人数になっています。実際に出前講座の際に先生のお話などを聞きますと、SDGsや地球温暖化、気候変動などは、特化して専門的に勉強する時間がなかなか取れないので、来ていただいてよかったという感想をいただいています。

ここで、出前講座で使っている動画を2本ほど見ていただきたいと思います。

2つの動画とも非常に好評で、これらの動画を見て、子どもたちの意欲が高まった、真剣に取り組みだしたという声を多く聞いています。

最初の「2001年_未来の天気予報」は、地球温暖化の仕組みや二酸化炭素がどうして増えたのか、気温の上昇の予測のグラフなどを説明した後に、それでは、このまま何もしなかったら、皆さんがおじいさん、おばあさんになっている頃にはこんな風になっているという予想天気予報がありますので、見てみましょうと紹介しています。

今、トラブルで音が出ないので、後ほど皆さんに見ていただきます。

引き続き、5ページ目の環境人材の育成の説明です。

5ページ目のア、環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣です。環境プラザで行っている事業で、市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

環境保全アドバイザー派遣制度は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題など、様々な環境分野の研修会や学習会等に専門家を派遣する事業で、令和3年12月1日現在で11人のアドバイザーに登録いただいています。

札幌市環境教育リーダー派遣制度は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や、地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導者や解説者を派遣する事業で、令和3年12月1日現在で28人のリーダーに登録いただいています。

また、アドバイザー・リーダーの派遣期間は、例年5月1日から3月31日までですが、今年度は、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置のため、5月4日から7月11日まで及び8月28日から9月30日まで派遣事業を中止したことから、アドバイザー・リーダー共に、6ページの上に派遣実績が載っていますが、令和2年度に引き続き、派遣件数や参加人数はコロナ禍以前の年度に比べて大きく下回っています。

近年、複数のリーダーの派遣が必要となる川での水生生物観察会や幼稚園、保育園の自然体験会などの申込みが増加し、対応可能なリーダーが不足していることから、新規に募集し、令和4年度から新たなリーダーを委嘱する予定となっています。

次に、6ページのイ、こどもエコクラブです。

環境プラザは、公益財団法人日本環境協会が実施しているエコクラブという全国組織の札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体及びこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。

今年度は、環境プラザが自ら運営するこどもエコクラブを立ち上げ、さっぽろあそエコ団として活動を行いました。市内の川や公園、山での自然体験活動4回を含む全7回を実施しています。コロナ禍のため、オリエンテーションはオンラインで行い、野外の活動は、日程変更を行いながら、何とか緊急事態宣言の合間を縫って実施し、先月には最後の発表会までこぎ着けたと聞いています。

次に、6ページの下ウ、指導者向け研修です。

これは、教員や保育者など、子どもたちへ伝える立場の方を対象に、環境教育や環境保全活動をテーマとした講座等を実施しているものです。

11月にオンラインで実施した Growing Up WILD 養成講座では、教育関係者や児童会館職員など、様々な立場の方が参加しました。

この講座は、オンライン研修でエデュケーター（一般指導者）の資格取得が可能なことから、資格取得希望者への支援とともに、同じ興味や関心を持つ層の関わり合いや学ぶ機会を創出することができました。当該研修は、継続して来年度も実施する予定です。

次に、7ページのエ、環境教育・子どもワークショップの開催です。

令和2年度に引き続き開催する予定で、令和4年1月15日及び22日に、児童会館に通う小学生を対象として行い、市役所本部のメインファシリテーターから数か所の児童会館の会場にオンラインでプログラムを配信し、各会場では現地のファシリテーターの誘導

により、その場にいる子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで他の会場とも意見交換をするなど、オンラインと対面をミックスして行うこととなっています。

令和2年度は、小学校3年生から6年生を対象として、1回2時間のプログラムを2回、計4時間のプログラムとして、30名が参加して行いました。

今年度は、企画について児童会館を所管するさっぽろ青少年女性活動協会さんと打合せ、児童会館に通う小学生は低学年が中心であることから、低学年でも理解しやすい90分程度のプログラムに見直しました。1回当たり30名、2回の開催で60名程度の参加を見込んでいます。併せて今年度は、環境教育に興味があつて、ワークショップなどのスキルを身につけたい高校生や大学生などの若い世代の人材育成にも同時に取り組むこととして、希望する若者を対象にファシリテーター等の養成研修会を実施して、受講した若者には、1月に開催するワークショップの運営スタッフとして活動してもらう予定となっています。

開催企画概要は参考資料にもあります。

次に、7ページ下段のオ、教員に向けた研修です。

教育委員会では、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、環境教育へ役立つ施設の活用や環境教育の基礎など環境教育に関する専門的研修を実施し、今年度は延べ60人以上の教員が受講する見込みとなっています。

(1)の学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進及び(2)の環境人材の育成については以上です。

ここで、先ほどトラブルがあつてお見せできなかった動画をご覧ください。

[動画の上映「2100年_未来の天気予報」]

○事務局（北村環境教育担当係長） これは、環境省のホームページにも公開されている映像です。

次にお見せしたいのがこちらで、世界で16の言語に翻訳され、100万回以上再生されている、地球温暖化対策の動画です。

これは、冒頭の部長の挨拶にあつたCOP26の開催に先駆けて、国連が世界に発信したユーチューブ動画です。出前講座の中では、いろいろな取組事例を紹介した後に、この動画を見てもらい、これが今、世界の人に一番見られて影響を与えている温暖化対策の動画ですと紹介しています。

小学校では、まだ国連のことを習っていない学年もあるので、国連というのは世界中の国が集まって、SDGsや地球温暖化、貧困など、いろいろな問題を話し合うところで、国連総会はその一番大きな会議ですと説明しています。また、恐竜の絶滅を知らない子どもたちもいるので、「恐竜好きの人は知っていると思うけれども、恐竜は、今から6,600年前に巨大隕石が衝突して絶滅した動物ですね。この恐竜がなぜか英語を話して、そ

の絶滅した恐竜が、化石燃料の石炭や石油を燃やして二酸化炭素をたくさん出すことにお金を使うのは止めようと国連総会で演説します。」と説明してから上映すると、小学生の皆さんでも内容を理解して分かっています。

実際の映像をご覧ください。

[動画上映「絶滅を選ばな！」]

○事務局（北村環境教育担当係長） 以上です。

（１）と（２）の環境人材育成までの説明を終わりました。よろしく申し上げます。

○太田会長 それでは、7ページのところまでのご意見を頂戴しますが、議事録の都合上、お名前を言っていただいてからご質問等をお願いします。

まず、資料3の1ページ目のはじめにのところでのご質問やご意見を頂戴します。

これは、資料として概要版と本編がありましたが、この委員会で1年以上かけて検討し、2019年3月にでき上がったもので、そのことが4つの取組で触れられています。

ご質問等はございますか。

（「なし」と発言する者あり）

○太田会長 全てここからスタートしておりまして、またここに戻ってということでも結構ですので、後ほど、またよろしく申し上げます。

それでは、具体的などころに入ります。

2番ですが、令和3年度実施状況及び今後の予定についての項で、まず（１）学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進という本委員会のメインのところになります。2、3、4、5ページの上の段ぐらいいまでですが、ご質問等はありませんでしょうか。

○大沼副会長 大沼です。

コロナ禍の中、できる限りのことをやろうということで取り組んでこられた皆様に敬意を表します。本当に頭の下がる思いです。

それから、エコライフレポートがイクレイで紹介されたということで、非常に誇らしいことだと思っています。

それで、幾つかの数字が紹介されているのですが、3ページに夏休みのエコライフレポート、4ページにバスの貸出し実績、5ページに出前講座・授業等の実績とあるのですが、できればコロナ禍前の実績も全て並べていただけると、コロナによってどのくらい落ち込んで、どのくらい頑張れたのかということが分かりやすいと思いました。

エコライフレポートは、令和3年度と2年度は並んでいるのですが、もう既に小学校で96%、中学校で88%、昨年も89%ということですから、恐らく、そんなに落ちずに頑張れているという気はしますが、そういった数字があるといいと思いました。

バスの貸出し実績は、コロナ前との比較があって、もちろん減ってしまったのは仕方ないことですから、今後、これがどのくらい回復できるのかというのは励みにもなると思

います。

5 ページの出前講座は、恐らく相当減っていると思うので、コロナ禍前の数字を見ながら、このぐらい減っているけれども、それでもこれだけ頑張れたよということを数字で出せるといいと思いました。

○事務局（北村環境教育担当係長） ありがとうございます。

エコライフレポートにつきましては、副会長のご発言のとおり、最近は取組率90%以上でずっときており、維持できているかなというところです。

出前講座については、昨年度と今年度にSDGsや地球温暖化関係の依頼が増えており、その前年はあまり来ていない状況でした。今回初めて数字を拾ってみると、今年度は既に去年の実績を超えるぐらいの申込みがあることが分かって、今も申込みが来ていますので、これからも増えていくと思います。学校によっては、オンラインでの依頼もあり、この辺りの数字はこれからも増えていくと考えており、経年変化を表わせるような工夫をしたいと思います。

○太田会長 実績のところでお話がありました。できればコロナ前の様子も比較のために載せてほしいという要望も含まれてございましたけれども、関連して何かございませんか。

○伊藤委員 先ほど、エコライフレポートの話もちよっとしたのですが、今、現役の先生方もおられますけれども、私が現役の頃から、これは本当にエコなのという話がありました。先生方がみんなにチェック表を配っても、どの程度のことができているのだろうかということは、現場でも若干疑問が出てきているところがあります。

子どもたちは実際につけていて、小学生はしっかりとつけているのかもしれないのですが、中学生ぐらいになると適当につけてしまうということも若干あるのではないかと思っていました。

SDGsとか環境のことをいろいろ考えると、このプリントを見るだけでも非常に効果はあるのかとも思うのですが、削減量の実績が本当にこんなのか、正確なのかというのは若干心配なところがあります。

そういう意味で、昨年度もご提案をしているのですけれども、今、子どもたちは、クロームブック（タブレット）でSNSを使つての授業をされているようです。そういう媒体を使つて、リアルタイムといいますか、その日のうちにクリックすると、今日は何々ができましたと送信されるようなデータの集め方をしたほうが、本当のデータといいますか、みんなが頑張った削減量をもっと明確になるのではないかという気がします。

また、学校単位でも、そのデータを使えばできると思うので、学校としての取組や子どもたちの取組をもっと正確に見えてくると思います。

タブレットなどの媒体を使うことはなかなか大変なことなのですが、コロナの関係で、タブレットを子どもたちも自由に使える環境が逆にできてきました。それらをうまく使つて、実際はこうなのだぞ、これぐらい減ったぞと言えるようなものにしてほしいと思いま

す。今のデータの取り方では少し曖昧かなという気が若干しています。SNSを使ったデータはかなり正確なデータということで、もっと子どもたちにアピールができるという気がしているところです。

私は、今のビデオを見ていて、地球温暖化がビデオ以上にもっとひどくなるのではないかと心配しています。危機感をあおるわけではないですが、そういう環境の悪化がどんどん進んでいるということを皆にもっと分かってもらって、身近なところから環境に対する考え方を持ってもらえればと思っています。

○事務局（北村環境教育担当係長） ありがとうございます。

今の仕組みの中では紙に書いていくしかないので、正確さということはあるのですが、小・中学生は13万人いますから、毎回13万枚を印刷するというので、エコライフのレポートでこんなに紙を使ってしまっているという面もあります。

これから1人に1台のタブレットが配付されるようになれば、そのようなこともできるのではと思っています。そのタブレットを家に持って帰ってもいいとか、使い勝手がだんだんよくなって広まって、タブレットで全部できるようになればとは考えています。

○太田会長 ほかにありますか。

○久保田委員 公募委員の久保田です。

私も今のことに興味を持っていたのですが、伊藤委員がおっしゃったことは本当に大事な視点ではないかと思えます。

子どもたちの日々のエコ活動を見える化して、それがきちんと反映されると、子どもたちのモチベーションを高めることにつながると思います。今、デジタル化が非常に急速に普及していますので、これまでの取組を続けていくことも大切ですが、さらに発展、改善させる視点で進めていってほしいと思いますし、もうそういう時代に来ているのではないかと思います。

あと二、三、気がついたことを申し上げます。

私も長く学校現場にいましたので、感じることはあるのですが、この公募委員に応募する前に議事録を拝見させていただきました。そうすると、前の委員もご指摘をされていたのですが、こういう環境副教材や教師用の手引書を配付して、いかに活用するかが大事で、折角労力をかけていいものを作っても、配付だけで終わって、活用されなければ何にもなりません。札幌市の学校は300校近くありますので、本当に大変だと思うのですが、学校の教育課程の中に環境教育推進をきちんと位置づけ推進しなければいけないと思います。主体的にやるのは学校ですが、学校任せにして、ただ配付して、それでやってくださいというだけでは、やっているだろうぐらいにしか受け止められず、本当の成果として表れないというふうになってしまうので、そこら辺のことはきちんとフォローしなければいけないと思います。

それから、手引書については、毎年、いろいろな教員の方がワーキングチームを組んで、見直しを進めているというのは本当にいいことだと思うので、そういったことを含めて、

せっかくの取組を生かすようにしていくことが大切だと思います。

また、環境教育のクリック募金ですが、これは周知の努力が非常に足りなくて、折角いいことをやられているのに、広く知られて本当の趣旨が生かされているというふうになんていないところがあるので、そこら辺の工夫をどうしたらいいのかということがこれからの課題ではないでしょうか。

さらに、書面会議のときに私は意見を申し添えたのですが、エコライフレポートについては、今の件もそうですけれども、子どもたちがいかに自分たちの問題として取り組んでいくかという視点が大事なので、子どもたちが人ごとではなくて自分ごとと捉えて取り組んでいけるように、そこら辺の視点の改善が大切だと思っています。

ということで、見直しの課題がたくさんあるのではないかと思います。

○事務局（北村環境教育担当係長） ありがとうございます。

エコライフレポートについては、先ほど伊藤委員からもありましたが、次のステップ、次のステップという形で改善、継続していきたいと思っています。

クリック募金についても、現在は7社で、これもまだ周知されていないところがありますので、ほかの会社も含めてどうやって周知していくのかという検討も必要かと思います。

クリック募金については、ほかではなかなかない取組なので、他の自治体から照会が来ているような案件でもあります。

また、副教材についても、今までもワーキングチームの先生たちと一緒にやっているのですが、どのくらい活用されているか、一昨年ぐらいは70何%ぐらいの活用率という統計が出ていましたが、さらに高めていく工夫をしていきたいと思っています。

○太田会長 エコライフレポート、クリック募金、副教材等についてのお話でしたが、エコライフレポートにつきましては、要望ということで、見える化、デジタル化、即時性、このようなことを次のステップとして検討をいただきたいというお話がありました。付け加えがありましたら、他の委員の方からもお願いしたいと思います。

また、クリック募金に関しても周知の努力を今後とも継続していただきたいという要望もありました。

あとは、資料の活用状況と、手引き配付の中での環境の見直しについてのお話もありました。これについては、実態といいますか、小学校、中学校、教育委員会のほうではどうかということをお聞きしたいと思います。

まず、資料の活用状況について、小学校ではどのようになっているか、ご存じの範囲でお願いしたいと思います。

○野崎委員 野崎です。

まず、環境副教材、教師用手引書ということで、緑の冊子の中の2ページ目に出ている「ちきゅうとなかよくしてる?」「地球にやさしくしてる?」「地球のためにできること」の3冊が奇数学年の1・3・5年生のときに配られております。

こちらは実際にどのぐらいの活用なのかということですが、正直な話をすると、その学

校の先生に委ねられているところが非常に大きいです。

先生方は手引書を基に授業をしますが、その手引書を見ると、例えば、参考資料にどれを使いなさいというのが書いてあって、例えば「ちきゅうとなかよくしてる？」とか何ページ参照という形で出ているので、そちらをしっかりと見て、では、これを使おうというふうになっています。ですから、こういうものをぜひ使ってやろうと考える先生がいる学校は使っていると思いますが、実情はどうなのかというと、先生方としては、教科書もあり、社会科であれば副読本もあり、資料集もあり、いろいろなものであふれている中で、こちらをどうやって使おうかというところで、難しく感じている先生も多いです。

ですから、実際は、それを使う場面が1年の中で1回か2回あるかどうかというのが正直なところなのかもしれません。

ただ、ないよりあったほうが良いと思いますし、そちらを見て参考にして、それを開かなくても、それを教科書に置き換えたり、実際にそのように使っている先生も見ましたし、今、コロナ禍で先生方の研修もできないところがありますので、資料として、私たち自身が教材研究に使ったりという活用の仕方もあるので、直接、子どもたちが開いてという場面だけではない、そういう効果はあると感じているところです。

また、先ほどクロームブックの話が出ましたが、今の私どもの学校の例をお話いたします。エコライフレポートは、我が校の教務主任が集めたりするのですが、やはり手間なのです。夏休み前、冬休み前に配付して、各クラスで書いてもらって集めて、それをまたとじてという作業があります。ですから、クロームブックを使って、グーグルの定型フォームだと即時的にデータも取れますし、なかなかいいかなと思いながらお話を聞いていました。一方で、夏休み中に子どもたち1人1台を持ち帰れるかというと、そのハードルはまだ高いと思います。本校でも、既に3回ほど子どもたちが持ち帰りをしています。学校によっては、毎週末に持ち帰ったり、それで宿題をやったりということをしているので、学校によって差異があります。やはり、通信環境がないと駄目だったりします。その家庭のためにポケットWi-Fiみたいなものを渡すのですが、あっという間に5ギガぐらいなくなったり、なかなか難しかったという学校もあると聞いています。

今は過渡期で、今後数年したら全員が毎週・毎日のように持ち帰れるようになると思うのですが、現在、ここで切ったり集めたりすることは、先生方の労力がかかるし、子どもたちも大変だし、記録がどこかへ行ってしまったということもあるので、例えば、ある部分については、夏休みや冬休みに入る前にこれを見ながら入力して、それは集計がすぐ出るので、休みが終わった後、毎日どんなふうに記録をしたかは振り返れないけれども、それは何か別の手立てを考えて、休みが終わった後にどうだったか教室で振り返るということはできると思います。ですから、中身をもう少しグレードアップすることで、今後はできるようになるのではと考えていました。

○太田会長 今、改善策の改善策のような形で出されましたけれども、吉田委員から小学校長会として付け加えることはございますか。

○吉田委員 特にはないですけども、副読本なので、目にするという事は大事だと思います。今、環境に関して興味がないという子どもも教師もいるわけですし、学校では、国語、社会、算数以外にも、環境のことや、人権のことや、いろいろなことがあると思うので、環境教育とか人権教育の時間がたくさんあるわけではないので、目に触れるものを行政がつくっていただけというのは、非常にありがたいことだと思います。それは無駄ではないと思っています。

○太田会長 すぐそばにある良さというお話をいただきました。

中学校はどうでしょうか。

○荒島委員 中学校は、現在はないです。

ただ、環境教育について扱わない学校はなくて、多くの場合は教科の中でやりますし、学校によっては総合的な学習の時間に主たる学習内容として取り上げています。

また、教材については、1人1台端末についても過渡期にありますので、ウェブ教材化がされていけば、この先はもっと使い勝手がよくなると思います。授業の中で、理科の時間や社会科の時間、場合によっては道徳の時間にぽんと使えます。

そういうことで、今は過渡期にあることを踏まえながら、紙物の教材からデジタル教材へどううまく移行していくかですが、吉田委員がおっしゃるように、紙物が配られて手元にあるのと配られないのでは全然違いますね。今はまだ、手元にあれば、何らかの形で活用しようとするのが学校現場の教師だと思うのです。その意味で、今配られている資料というのは非常に貴重だと思っています。

○太田会長 教育委員会のお立場から、手引き等で環境教育について触れている点などの紹介がありましたら、阿部指導主事に発言をお願いしたいと思います。

○事務局（阿部教育委員会企画担当係長） 教育委員会の阿部です。

今までのお話の中で、紙の良さや、過渡期だからこそハイブリッド、実際にパワーポイントやワードとか、先生方がすぐに使えるものとして、クロームブックを開いてそこから持ってくれば、画面に映して子どもたちに配信できるような仕組みについても、この後、いただいたご意見を参考に検討したいと思います。

○太田会長 様々な改善点や要望等が出されてまいりましたが、関連して何かありますか。

○荒島委員 イの環境教育へのクリック募金の件です。

私も、かつて授業を持っているときに利用させていただきましたが、授業をやるときの教材をいただいて、大変良かったです。

この事業はぜひ継続していただきたいことと、先ほど久保田委員からもありましたけれども、もっと多くの学校がこれを活用できるように、ぜひ啓発活動を引き続きお願いしたいと思います。

また、このハードルを上げているのは、ひょっとするとこの事業報告書の作成なのかもしれません。これは、割とレポート形式でずっと書かなければならない枠だったと記憶しています。この辺を選択項目であるとか、もう少し簡便な方法の報告形式に変えていただ

ければ、先生方が応募しやすくなるのではと思っています。

○太田会長 クリック募金の事業報告書についての改善策ということですね。

○事務局（北村環境教育担当係長） 先ほど、選択式というお話もありましたけれども、どのように報告をいただいて、それをホームページにどうアピールしていくかについて考えたいと思います。

○太田会長 それでは、次に進んでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○太田会長 エの校外学習用バス貸出し、あるいは（２）の環境人材の育成について、副会長からありましたけれども、さらにご意見や要望等はございますか。ご質問でも結構です。

（「なし」と発言する者あり）

○太田会長 それでは、後でまた戻ってご意見をいただいても結構ですが、7ページの教員に向けた研修まで、ご意見等を承りました。

続けて、（３）環境教育・環境学習の場と機会の充実の説明をお願いします。

○事務局（北村環境教育担当係長） 8ページ以降ですが、（３）の環境教育・環境学習の場と機会の充実、（４）の普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しについて、一括でご説明をいたします。

環境教育・環境学習の場と機会の充実、アとして、学習支援等、これは環境プラザの事業です。

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

クリアファイルの中にリーフレットがありますので、そちらもご覧ください。

今年度、影響が大きかったのは、新型コロナウイルス感染症対策の関係です。緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置のために、休館が5月4日から7月11日まで、そこから3週間ぐらいは開館しましたが、再度8月2日から9月30日まで休館しましたので、開館期間中の4月及び10月に「あそびば！エコプラザ」として、ゲームや紙芝居を利用した環境学習の支援事業を行っています。

8ページの中段の各種講座等の実施です。

大学との連携事業として、北海学園大学のオンライン授業の中で、環境プラザの取組紹介を行っています。

藤女子大学のオンライン授業では、エルプラザ公共4施設には環境プラザのほかに消費者センター、男女共同参画センター、市民活動サポートセンターが入っていますので、環境問題、消費生活、男女共同参画、市民活動の各テーマで、講義を行いました。

また、環境相談スペシャル講座では「ゼロカーボンシティーさっぽろとわたしたちの暮らし」と題して、札幌市職員による気候変動対策行動計画や家庭向け再エネ拡大に関するオンライン講座を開催して、一般市民のほか、企業のCSR担当者や環境分野を研究する

学生など、幅広い層の参加がありました。

さらに、8月8日の道民笑いの日に開催されたライブとオンライン配信をミックスした「みんならウィーク」というイベントがありました。ライブはサッポロファクトリーで開催しましたが、お笑いタレントとともに環境プラザの職員が出演し、環境プラザの取組を紹介しています。

次に、8ページの下のウ、さっぽろこども環境コンテストです。

これは、小・中学生が、日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成20年度から実施しているものです。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、一堂に会してのステージ発表は困難なことから、事前に発表の様子を収録した動画を、令和4年1月8日から14日に開催予定の環境広場さっぽろ2021バーチャルツアー、オンライン開催するものですが、ここで審査結果とともに動画配信をする予定となっています。

こども環境コンテストは、昨年度もコロナ禍の影響からポスターや動画の応募のみでした。今年度も、かなりの学校や児童館などにこども環境コンテストの宣伝や勧誘にお伺いしたのですが、各学校とも9月末まで緊急事態宣言でしたので、ほとんど活動ができていない状況でした。

私たちが9月で緊急事態宣言が終わりましたが、その後がどうなるか見えない状況で事業を進めたという点もありましたが、各学校にお伺いしたところ、学校の主だった行事、運動会、学習発表会、修学旅行、宿泊研修、校外見学などは全て10月以降に集中せざるを得なくて、先生は何回も計画の立て直しを余儀なくされたということで、子ども達も大変忙しいという話を聞きました。

9ページの上段に、今年度参加予定の団体を掲載しています。

学校外団体が三つ、小学校、中学校で一つずつという予定となっていて、収録自体は昨日の土曜日に行っています。

次に、(4)普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しです。

アとして、環境プラザのホームページ等です。

環境プラザでは、講師派遣や教材貸出し、事業について、ホームページで情報提供を行っています。また、フェイスブックや動画共有サイトに「エコチャン！！ー環境プラザYouTubeチャンネル」を立ち上げて、作成した動画をアップロードするといった情報発信も行っています。

次に、9ページの下段のイ、環境広場さっぽろ2021バーチャルツアーの開催です。

これは、子どもたちを主たる対象として、環境教育を目的とした未来を思う総合環境イベントとして開催しているものです。

平成30年度、令和元年度は札幌ドームを会場に開催しましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、札幌ドームでの開催を見送り、その代わり令和3年1月に札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とする初のオンラインイベント、環境

広場さっぽろ2020バーチャルツアーとして開催しています。

昨年度の実績では、出展企業・団体数は212、来場者、アクセス回数も2万回近くの上って、バーチャルイベントとしても大変盛況でした。

今年度も、新型コロナウイルスの感染症拡大防止や仮想空間を活用した新たなイベントスタイルの発展可能性を探る観点から、オンラインによる環境広場さっぽろ2021バーチャルツアーとして、令和4年1月8日から14日まで開催する予定です。

お手元の資料に大判のチラシがありますので、ご覧いただければと思います。

これは、先週末に印刷が上がったところで、今日の委員会にお配りすることができたのですが、これから順次、市内、道内に配布するものです。

続きまして、10ページのウ、環境中間支援会議・北海道の取組です。環境中間支援会議・北海道は、行政や地域など様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議となっています。環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）と公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO法人北海道市民環境ネットワーク（きたネット）が連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を行っているものです。

また、環境省北海道地方環境事務所、北海道庁、札幌市もオブザーバーとして会議に参加しています。

ホームページに「環境☆ナビ北海道」があり、こちらに環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

最後に、10ページのエ、環境教育・環境学習ガイドの発行です。

これは、札幌市環境教育・環境学習基本方針に基づいて、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、札幌市の各部局が行っている取組をまとめたガイドを毎年度発行しているもので、市民への広報、情報提供に活用いただき、各取組への市民参加を促して、環境教育・環境学習の一層の推進を図るというものです。

冊子の前半は、校外学習用バス、副教材、クリック募金等といった、ただいま説明を行った事業を紹介していますが、6ページ以降は、札幌市の環境教育・環境学習に関する取組一覧ということで、札幌市の環境教育関連の事業を網羅したものになるため、毎年の取りまとめには労力を要しますが、例えば、札幌市ではどんな事業をしているのかということや、こんな事業を探しているけれども、札幌市では実施しているかなどを調べる索引としても使うことができ、非常に便利なものであると聞いています。

資料3に基づきました環境教育・環境学習の機会の充実、普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しについての説明は以上です。

○太田会長 それでは、（3）と（4）、8、9、10ページの中でご意見やご質問等がありますか。

○久保田委員 一つだけ聞きたいのですが、8ページのイのところです。

「ゼロカーボンシティさっぽろとわたしたちの暮らし」と書いていますが、私の理解で

は、2050年までに、日本の目標もそうですけれども、札幌市もゼロカーボンシティを宣言して環境政策を進めていると思うのですが、昨日の新聞に、北海道が2030年度までに温室効果ガスの削減目標を46%に引き上げることが報道されていました。今、札幌市では、それについてどういう取組をして進んでいるのか、教えていただくことができますか。

○事務局（東館環境政策課長） 環境政策課長の東館です。

札幌市では、今年3月に気候変動対策行動計画という気候変動に対する新たな計画を策定しており、委員の仰るとおり、2050年の長期目標は実質ゼロということですが、その過程の2030年、ほぼ10年後の目標については、直近の2016年の札幌市内の温室効果ガス排出量に対して2030年までにそれを55%削減するという数値目標を掲げた形で計画策定をしています。

北海道としては、国が46%削減ということで今回見直しをしたので、その46%をベースにしたものと思います。札幌市は、国の46%削減よりも先に計画を作ったのですが、今申し上げたように、2016年の実績に比べて55%ですから約半減という目標を設定しているところです。

○太田会長 ほかにございませんか。

○有坂委員 有坂です。

一つ教えていただきたいのですが、10ページに環境中間支援会議・北海道の取組が書かれていて、ホームページでイベントや助成金の情報を発信されているということですが、ここに出ている4者が連携して、ほかにどんな取組をされているのか、教えていただければと思います。

○太田会長 10ページのウのところですが、ほかの取組はご存じありませんか。

○事務局（北村環境教育担当係長） 内山委員にお願いしたいです。

○太田会長 では、内山委員からご存じの範囲でお願いします。

○内山委員 まずは、ここにも書いてある「環境☆ナビ北海道」でイベント情報や助成金情報等を発信するという活動をやっています。

ほかには、今年はコロナ等でできていないのですが、ここ環境プラザも環境教育施設ですし、道内にも環境教育施設がたくさんあり、それぞれ注目される取組をしているのですが、環境教育施設の取組をいかにブラッシュアップしていくかということを目的として、勉強会を実施しています。先進的な環境教育施設の研究会もありますので、最近はそのようなところから推薦いただいた講師を招いて研修会を行ったりしています。

そのほかに話題になっているのは、最近が高齢化等でNPOの運営がなかなか継続できていない現実があるので、NPOの基盤の支援をどこがやるのか、どうやって環境保全活動を担っていく団体を継続させるのか、どこが支援して、その資金はどうするのかという、様々な課題が注目されています。もちろん、北海道には北海道NPOサポートセンター、札幌市には札幌市市民活動サポートセンターなどが基盤支援を行っていますが、環境系の

団体の基盤支援をするにはどうしたらいいかということが、最近、課題として出ています。

また、協働事業では、それぞれの団体の目的や活動する対象が違うので、なかなかまとまらないところがあるのですが、その中でも、我々の共通する課題を見つけながら行っています。

○有坂委員 ありがとうございます。

なぜそんなことを聞いたかといいますと、環境学習ガイドの札幌市の取組がリストになっていると思うのですが、いろいろな市民団体の方の名前が出てきていて、たくさん取組をされていると思います。

ここにある環境中間支援会議は、中間支援組織として様々な団体と一緒に活動をされていると思うので、札幌市の全体的な取組をボトムアップするためにすごく重要な組織かと思っています。ぜひそこは札幌市と連携しつつ、内山さんがおっしゃったようなことが進んでいくといいと思いました。ありがとうございます。

○太田会長 この環境中間支援会議・北海道とは直接的な関係はないかもしれませんが、NPOで日常的にご苦労されているといいますか、コロナ禍でのご苦労の一端でもお聞かせいただければと思うのですが、坂本委員、何かございますか。

○坂本委員 苦労しているNPOの主宰をしています。

本委員会は、札幌市が主体となって、学校教育にフォーカスされているのは理解しているのですが、やはり学校現場だけではできないこともあると思うので、地域ぐるみとか、NPOとか、多様な人たちと一緒にというのが理想だと思います。

私たちのところでも、高校と大学が多いのですが、いろいろなプログラムをして、同じ漁業の現場に行ったり、畑の現場に行ったりしたときに、これはあれと関わっているよね、これは自分とこういうふうにつながりがあるよね、というように、想像力が豊かな子どもたちはすごく伸びると思うのです。

学校の試験だと、どうしても答えは一つなので、例えば、エコバッグを持ちましょうというのが答えだとしたら、エコバッグを持つということは覚えているかもしれないけれども、エコバッグを無駄に使うかもしれないという危険性に気がつかなかったりします。生徒たちの中でそういうことを議論する時間を私たちはつくるのですが、それができるのは、学校だったり、あるいはPTAとか保護者も一緒に来るのですが、周辺の大人のアシストやサポートがすごくあるなど感じています。

そういう意味では、この方針の中でも生涯的に学習していくということが書かれていますが、指導者だけではなくて、一般の大人の学習の機会も含めて、大人が勉強するというのが大事だと思っています。

私たちは、先ほどお話しした環境省の事業の中でも、修学旅行のお弁当は、ふだん600円か700円の予算で余市で作って出しているのに、札幌の業者さんが冷凍食品を並べて持ってくるようなお弁当が実は多かたりするのです。それを地域の事業者の人に、地元の食材でつくってほしい、できるだけ冷凍食品を使わないでほしい、プラスチックを使

わない容器を研究してほしいということをお願いすると、いやいや、コストがこれだけ高くなるし、回収が面倒くさいし、プラスチックのほうが紙の容器より食べやすいということをお学校の先生にも言われたりするのです。ですから、どうしてそういうことをしようとしているのかを一緒に考える研究会のようなことをやっています。やはり、大人がそれを理解していないと、子どものいる現場では現実的に実行できません。内山さんがおっしゃったように、みんな目的が違うので、一緒にやるというのは非常に難しいのですが、なぜやるのかというところをみんなで勉強していきたいと思っています。そういう機会ができれば、前進するのではないかと思います。

○太田会長 ご苦勞の一端ということで、話しづらいこともあったかと思います。先ほど10周年記念誌を見せていただきました。大人の関わりの部分も大切だということで、教育の裾野の広さを感じました。

それでは、先ほど見ていただいた動画の感想でも結構です。本日の会議全体、あるいは資料3全体を通じてのご意見、ご質問等がありますか。

○内山委員 今回は、資料を先にいただいているいろいろ読んで、今日は何を話せばいいのかと思っていました。抽象的にしか考えられなくて、なかなか具体的に発言ができなくて申し訳ないのですが、今回の資料は、割と手法的な部分が多いと思います。子どもたちに対しても、親に対しても、環境教育ということで何を伝えていくかという視点に立ったときに、札幌市としての基本方針があると思いますけれども、いろいろと事業をやってみて感じる場合があります。

冒頭に坂本委員から都市と農村の関係というお話がありましたけれども、例えば、自然エネルギーの風力発電施設とか太陽光発電施設を見に行くという話もありましたが、札幌から遠く離れたところでは、物すごい規模の太陽光発電や風力発電が計画されていて、それはなぜかという、やはり大都市で大量のエネルギーを使うからだと思うのです。

具体的には、厚真町では、海岸草原がずっと繋がっているのですが、そこで十何キロにもわたる風力発電設備の設置が計画されています。そこを見に行くのは遠いかもしれませんが、風力発電がCO₂を出さないからいいのだよということではなくて、都市のエネルギー使用がそういう自然環境に対しても負荷をかけているという視点はどこかで伝えていきたいという気持ちがあります。

どう伝えていくかが難しいと思うのですが、食料もそうですね。食料を生産するために、地方の川が真っすぐになって、段差ができて、魚が上れなくなる。今、実際に小さな自然再生ということで、市民団体が一生懸命に手づくりの魚道をつくっているとか、都会に居ては見えない世界がたくさんあって、それを我々が伝えていくことは必要だと思っています。それをどういうふうに伝えていくかが難しいところなのですが、何とか努力をして伝えていきたいと思っています。

もう一つ、先ほどフロンティアキッズ育成事業を紹介しましたが、先生方もすごく大変だと思います。皆さん、教え方で苦勞されていると思うのですが、ある先生が今回

の授業をやってみて、正解がない世界で、実際に子どもたちにアウトプットして地図を描かせてみて、SDGsを教えるというのはこうだったのだというふうに最終的に分かるようなところがあるのです。取り組む前は教え方がよくわからない、というところがあるかもしれないのですけれども、まずはそういう視点でやってみるというのはすごくいいのではないかと思います。

この基本方針の議題とは大分離れた意見かもしれませんが、これを見てそう思いました。

○太田会長 今、エネルギー視点や企業視点の話もございました。北ガスでは、以前から環境学習、環境教育に非常に熱心に取り組まれているので、一端でもお聞かせ願えればと思います。西塚委員、何かございましたらお願いします。

○西塚委員 資料に関連しまして、4ページのバス事業については、大沼副会長から過去の実績ということで説明がありました。ここに数字がないのですけれども、毎年、石狩LNG基地に多くの学校に見学いただいていたのですが、この2年間は、石狩LNG基地は重要なエネルギー供給拠点ということで、コロナの状況に鑑みて受入れを中止させていただきました。教育現場の皆様大変ご不便をおかけして申し訳なかったと思っています。

一方で、学校様からの見学へのニーズが多かったものですから、一部でオンラインでのコンテンツを用意して、札幌市の学校を中心に、1年間で9校をオンラインでつなぎ、ご質問をいただいたり、その学校向けに専用動画をつくってお渡ししました。でも、やはり工場見学はリアル、現場がいいです。子どもたちの反応を見てもそうですが、スタッフがクイズなどをつくって工夫して学習プログラムをつくっても、エネルギー環境教育を学ぶということは、内山委員も言ったとおり、現場でその規模感を直接見る方が楽しいし非常に大切だと思います。

次年度以降は、まだお約束はできませんが、感染予防に十分配慮しながら、状況を見ながら、リアルで受入れをして、できるだけ次世代エネルギー環境教育に貢献をしていけたらと思います。

○太田会長 副読本などでもご協力をいただいております。

ここは、環境教育や環境学習に関して、これから札幌市でどうしていくかということ議論する委員会でございますけれども、今回、PTAや保護者のお立場からも参加をいただいております。保護者のお立場からのお話をいただけましたら、この委員会の糧にしたいと思いますので、村形委員、いかがでしょうか。

○村形委員 村形です。

札幌市PTA協議会では、10区でいろいろな行事をしています。札幌市内には環境に関わる場所がいろいろあるので、10区で研修大会とか親子での活動を企画しています。そういうものに利用することで、保護者や子どもたちにも一つの勉強になり、こういうところがあるのだよとか、すごく身近に感じられる場所なのだということがあるので、ぜひPTA協議会もタイアップしていただいて、こういう資料もいただいて、使ってほしい

とアピールいただけると、保護者にもすぐつながると思うのです。

私も今、ここに参加させていただいているので、持ち帰って報告したいと思うのですが、札幌市ではこういう活動をしているということをもう少しアピールできるように、PTAの側と一緒にできたらいいなと思つす。

○太田会長 親子でとかPTAとの連携というお話がございましたが、本当にそのとおりだなと感じました。

それでは、最後に副会長に締めていただきます。

○大沼副会長 大沼です。

最後の10ページのエで、札幌市の環境教育・環境学習ガイドの発行とあり、冊子を持見させていただきましたが、大事なものは6ページ以降です。実は、環境の部署だけではなくて、まちづくりだったり、交通だったり、公園だったり、あとは水道、下水道など、いろいろな部局横断で、縦割りではない形で集約されているというのは非常に大事なことだと思います。

2019年3月発行の札幌市環境教育・環境学習基本方針をつくったときも、環境教育のその部署だけが頑張つてやるのではなくて、縦割りを超えてあらゆることをやつていくということで、この会には、最初から教育委員会の方にオブザーバー参加をしていただいています。もちろん札幌市の環境教育・環境学習として事業をやつていくのは当然なのだけれども、行政の側も、縦割りではなく、いろいろな部署と連携して、先ほど内山委員やほかの皆様がおっしゃつておつり、道内のいろいろな地域を越えていろいろやつて広がりやつながりをつくつていくということがすごく大事だと思います。

このコロナ禍で、恐らく、ほとんどの皆さんが、自分の学校や自分の部署だけをつないでいくことで精いっぱいだったと思います。そういう地域を超えたつながりをどう再構築するかということがこれから大きな課題になっていくと思いますので、そういったところも念頭に置いて一緒に活動できたらなと願つています。

○太田会長 ありがとうございます。

それでは、本日の議事は全て終了いたしました。

事務局から連絡事項はございますか。

○事務局（北村環境教育担当係長） 次回の委員会ですけれども、今年度の取組結果がまとまりましたら、年度明けのできるだけ早い時期に開催させていただきたいと考えていますので、引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

事務局からは以上でございます。

3. 閉 会

○太田会長 どうもありがとうございます。

2年ぶりの司会で、少しつかみ切れなかったところがあるかなと反省していますが、皆様のご協力により終了することができました。

これもちまして、令和3年度第1回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を終了いたします。

本日は、お忙しい中、また道路状況が悪い中をご出席いただきまして、長時間にわたるご議論を誠にありがとうございました。

以 上